

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 13 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320120

研究課題名（和文） 18・19世紀の北大西洋海域における文化空間の解体と再生－「境界域」の視点から－

研究課題名（英文） The Atlantic History in the Eighteenth and Nineteenth Centuries: In the Perspective of Cultural Borderland

研究代表者

田中 きく代 (TANAKA KIKUYO)

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：80207084

研究成果の概要（和文）：本研究は、海域史の視点から 18・19 世紀に北大西洋に出現するワールドの構造に、文化的次元から切り込み、そこにみられた諸関係を全体として捉えるものである。海洋だけでなく、海と陸の境界の地域に、海からのまなざしを照射することで、そこに国家的な枠組みを超えた新たな共時性を映し出せるのではないか。また、海洋を渡る様々なネットワークや結節点に、境界域の小さな共同体を結びつけていくことも可能ではないか。このような着想で、共同の研究会を持ち、各々が現地調査に出た。また、最終年度に、新たなアトランティック・ヒストリーの可能性を模索する国際海洋シンポジウム「海洋ネットワークから捉える大西洋海域史」を開催した。なお、田中きく代、関西学院大学出版会、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書『18・19 世紀北大西洋海域における文化空間の解体と再生－「境界域」の視点から－』を、報告書として刊行している。

研究成果の概要（英文）：Our project, "The Atlantic History in the Eighteenth and Nineteenth Centuries: in the Perspective of Cultural Borderland" aims to explore the world which was born in the North Atlantic in the eighteenth and nineteenth centuries, in the perspective of cultural borderlands. We wish to accept the Atlantic as a whole and to write a total history of the Atlantic, by connecting the small communities at the both seaboard areas to several networks of the Atlantic.

We have had more than 20 research project seminars with presentations and deep discussions for the past four years. And at the final stage of the project, we held International Maritime History Symposium, "Maritime Networks in the North Atlantic.". The aim is to present the recent research and to generate a debate on how we can contribute to the maritime history in the North Atlantic, especially, focusing on the maritime networks which were interwoven with one another in the whole Atlantic.

I wish to add that we published *The Atlantic History in the Eighteenth and Nineteenth Centuries: In the Perspective of Cultural Borderland*, as a report of research project, edited by Kikuyo Tanaka, in March 2012.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2010年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2011年度	2,800,000	840,000	3,640,000
年度			
総計	14,600,000	4,380,000	18,980,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：北大西洋海域・文化空間・境界域・学際的・外来者

1. 研究開始当初の背景

本研究は、18・19 世紀に北大西洋に出現するワールドの構造に、文化的次元から、地域コミュニティのレベルから切りこむもので、北大西洋海域の両岸の海岸部あるいは近辺の地域で、古い共同体意識が崩れ、新しい共通意識が創造される過程を、文化人類学の方法を踏まえて、歴史学の立場から実証的に跡付けようとした。大西洋海域で、時期や程度に差異はあるものの、ワールドの成立過程で、等しく解体されたヴァナキュラーな共同体は、やがて自立的に再編され、R. E. ウィービのいう新たなコミュニティ(社会的コミュニティ)として再構築されるが、その過程で生まれた新たな集団アイデンティティすなわち共通の歴史的記憶の創出に注目することができるならば、方法論的には、E. ホブズボーム、C. ギアーツ、V. ターナーを踏まえることで、共通の歴史的記憶が紡がれる「場」や、そこでの儀礼や語りの変化を、文字史料のみならず、フォークロアなどのナラティブなものを通して確認することができるのではないかと考えて、共同研究を開始した。

2. 研究の目的

私たちは、歴史の中に係争的な要因を捉えるのではなく、融和的な要因を捉え、過去の諸所で再生能力を見出そうとしている。そうした意味で、中心ではない辺境、内包される辺境、あるいは境界都市などの境界域に注目することで、歴史との対話を再考したいと考えている。ここで、大西洋海域における海や森という境界域に注目しているのは、そうした意味合いがある。コミュニティの周縁部をなす森、そしてその背後にあるより広域な変化をもたらす海での文化構築に注視することで、大西洋の両岸のこうした文化空間に、何らかの共通性があるのか。伝播的影響はあるのか。独自性はどのように生まれるのか。こうした多様で複層的なマンタリテを捉えることが、研究の大きな目的となった。

3. 研究の方法

研究計画の概要は、アメリカ側の研究者と、ヨーロッパ側の研究者と、カリブ地域の研究者による研究をすり合わせて、北大西洋の海域史の全体像を描こうとするものであった。また、歴史学のみならず、文化人類学の理論、あるいは文学分野のフォークロア分析などと協力し合うことで、より全体に近づこうとした。つまり、北大西洋における各研究者の地域に根差した研究を、文化人類学などの理

論によってつなぎあわせ、史料的にはフォークロアなどの未開拓の史料を読みこなそうとした。このような着想に基づいて、4年間に20回近くの共同の研究会をもった。ここでは、研究代表者や研究分担者の研究発表の他に、研究協力者や関連の研究者からも報告を受け、海域史の共通理解を深めてきた。また、この共同研究はアメリカ側の研究者と、ヨーロッパ側の研究者と、カリブ地域の研究者による研究という、3つの班からなっている。それぞれ、イギリスとフランス、カナダとアメリカ合衆国の北部と南部、旧デンマーク領などを研究地域としている研究者からなる。各班でも、共通理解を深める機会をもったが、それぞれ各班から研究代表者あるいは研究分担者を現地調査に派遣し、さらには個々の成果を共通の研究会で分け合うことにした。さらに、最終年度に、関西学院大学で国際海洋シンポジウムを実施し、外国の研究者との共通理解にも努めた。フランス、アメリカ、カリブ海地域を研究する内外の海洋史研究者をパネリストに招いて、大西洋海域の諸地域の海の歴史の可能性を問い掛けた。

4. 研究成果

田中きく代編「18・19 世紀北大西洋海域における文化空間の解体と再生—「境界域」の視点から—」((日本学術振興会科学研究費補助金) 基盤研究 (B) 研究成果報告書)、平成 24 年 3 月刊行) にまとめているが、研究代表者、研究分担者、研究協力者による共同研究の他に、最終年度に、「海洋ネットワークから捉える大西洋海域史」を開催することができた。関西学院大学で実施したこの国際海洋シンポジウムは、4 年間の研究の総決算ともいえるものである。

本シンポジウムは、上記のように、北大西洋世界をひとつの海域と捉え、交流のネットワークから、新たなアトランティック・ヒストリーの可能性を模索するもので、北大西洋東側のフランスからは南ブルターニュ大学の S・リナレス氏、カリブ海地域からは米領ヴァージン・アイランドの M・ジャクソン氏、北大西洋西側のアメリカからは笠井俊和氏が、パネリストとして大西洋海域の諸地域の海の歴史の可能性を問い掛けた。合わせて、韓国・東国大学の南宗局氏が、地中海と大西洋をつなぐひとつの局面を提示して、一つの

海域と別の海域との関係についても示唆した。四人のパネリストの報告と、コメントターの報告、フロアーの質疑応答を通して、海洋ネットワークの様態、さらに海域史研究の意義や役割を考える充実した時間を共有できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ①金澤周作、「海の社会史試論—1744年 カリブ海におけるある拿捕事例から—」日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書『18・19世紀北大西洋海域における文化空間の解体と再生—「境界域」の視点から—』、査読無、2012、13-28
- ②阿河雄二郎、「近世フランスの狩猟史関係史料—鷹狩と猟犬狩の世界」、歴史と地理、査読有、2011、25-32
- ③田和正孝、「石干見研究の可能性—回顧と展望」、関西学院史学、査読無、38号、2011、29-62
- ④阿河雄二郎、「近世フランスにおける難破船略奪と《漂流物取得権》」、人文論究、査読無、60-1、2010、111-132
- ⑤山泰幸、「対談 民話と生きものの住まうまちづくり—環境民俗学からのアプローチ」、Bio City、査読無、46号、2010、30-39
- ⑥Nanami Suzuki、Popular Health Movement and Diet Reform in Nineteenth-Century America、*The Japanese Journal of American Studies*、(Society for American Studies in Japan)、査読有、21号、2010、29-62
- ⑦田中きく代、「祝祭空間と19世紀型パレードに見る政治文化—アメリカ合衆国史における研究動向と課題—」、関西学院史学、査読無、37、2010、75-92
- ⑧山泰幸、「民話に学ぶ環境民俗学—人と自然の物語」、Bio-City、査読無、44、2010、82-87
- ⑨阿河雄二郎、「近世フランスの歴史記述—フランス「国民」の起源問題を中心に—」、関西学院史学、査読無、36、2009、51-78

[学会発表] (計3件)

- ①金澤周作、「海の歴史のルネサンス」京都大学人文学研究所主催「越境する歴史学」研究会、2011年3月16日、京都大学

②Shusaku Kanazawa、Charity and Poor Law: A Comparison between Britain and Japan—The Charity of Meiji Japan under the Western Impact, 1868-1912—、The Fourth Korean-Japanese Forum for British History、Nov. 14, 2010、Kumamoto University

③田中きく代、文化的ボーダーランド、祝祭空間とパレード、日本アメリカ学会、2008年6月2日、同志社大学

[図書] (計17件)

①阿河雄二郎、ミネルヴァ書房、「海軍工廠都市ロシュフォールの誕生」、田中きく代他編『境界域からみる西洋世界—文化的ボーダーランドとマージナリティ』、2012、13-36

②金澤周作、ミネルヴァ書房、「英国コンウォールにおける海難の近代史」、田中きく代他編『境界域からみる西洋世界—文化的ボーダーランドとマージナリティ』、2012、37-61

③横山良、ミネルヴァ書房、「サンフランシスコのヴィジランティズム」、田中きく代他編『境界域からみる西洋世界—文化的ボーダーランドとマージナリティ』、2012、63-84

④田中きく代、ミネルヴァ書房、「エリー運河全通祭と19世紀の政治文化」田中きく代他編『境界域からみる西洋世界—文化的ボーダーランドとマージナリティ』、2012、289-313頁 総316頁

⑤田中きく代、関西学院大学出版会、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書『18・19世紀北大西洋海域における文化空間の解体と再生—「境界域」の視点から—』研究報告編、2012、1-92頁 総161頁

⑥田中きく代、国際海洋シンポジウムプロシエディング、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書『18・19世紀北大西洋海域における文化空間の解体と再生—「境界域」の視点から—』、2012、94-161

⑦田中きく代、昭和堂、「ラファイエットの凱旋と19世紀の祝賀政治」常松洋他編『アメリカ史のフロンティア I—アメリカ合衆国の形成と政治文化—建国から第一次世界大戦まで』、2010、52-77頁 総頁数227

⑧横山良、昭和堂、「カラーラインの乗り越え方—南部ポピュリストの闘いにみる」常松洋他編『アメリカ史のフロンティア I—アメリカ合衆国の形成と政治文化—建国から第一次世界大戦まで』、2010、131-153

⑨鈴木七美、昭和堂、「コミュニティ創生と健康・治療・食養生—18から19世紀南部におけるモラヴィア教徒の軌跡から」常松洋他編『アメリカ史のフロンティア I アメリカ合衆国の形成と政治文化—建国から第一次世界大戦まで』、2010、78-102

⑩金澤周作、山川出版社、「19世紀」近藤和彦編『イギリス史研究入門』、2010、128-53

⑪田和正孝、国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所、「伝統漁法石干見の保存と活用—新たな研究へ向けて—」国際常民文化研究機構編『国際シンポジウム報告書 I 第1回国際シンポジウム「海民・海域史からみた人類文化』、2010、157-165頁

⑫田和正孝、明石書店、「半島マレーシアにおける小規模漁村のツーリズム」、江口信清・藤巻正己編『貧困の超克とツーリズム』、2010、95-107頁

⑬田中きく代、山川出版社、「独立戦争から南北戦争へ」『アメリカ史研究入門』油井大三郎他編、2009、47-69頁

⑭鈴木七美、彩流社、「カナダ先住民シュスワップシャウエーム・ミュージアム&ヘリテージ・パーク」北米エスニシティ研究会田中きく代他編著『北米の小さな博物館 - 「知」の世界遺産2』、2009、266-273頁

⑮田和正孝、朝倉書店、「東南アジアの漁業と海域社会」春山成子・藤巻正己・野間晴雄編『東南アジア』、2009、235-248頁

⑯田中きく代他編著、彩流社、『北米の小さな博物館—「知」の世界遺産NO.2』、2009、285、2-3、74-83頁

⑰金澤周作、京都大学学術出版会、『チャリティとイギリス近代』、2008、総434頁

金澤 周作 (KANAZAWA SHUSAKU)
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：70337757

佐保 吉一 (SAHO YOSHIKAZU)
東海大学・文学部・教授
研究者番号：00265109

田和 正孝 (TAWA MASATAKA)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：30217210

山 泰幸 (YAMA YOSHIYUKI)
関西学院大学・人間福祉学部・准教授
研究者番号：30388722

鈴木 七美 (SUZUKI NANAMI)
国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授
研究者番号：80298744

(H20→H20：連携研究者)

(3)連携研究者
()

(4)研究協力者

中谷 功治 (NAKATANI KOJI)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：30217749

辻本 庸子 (TSUJIMOTO YOKO)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：70217313

濱口 忠大
関西学院大学大学院文学研究科研究員
笠井 俊和
名古屋大学大学院博士課程後期課程

6. 研究組織

(1)研究代表者

田中 きく代 (TANAKA KIKUYO)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：80207084

(2)研究分担者

阿河 雄二郎 (AGA YUJIRO)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：80030188

竹中 興慈 (TAKENAKA KOJI)
東北大学・国際文化研究科・教授
研究者番号：50145942

横山 良 (YOKOYAMA RYO)
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：30127873